

人々と水の関係

奈良市立一条高等学校附属中学校三年

小賦 奏輔

私が住んでいる近畿地方、そして奈良県は水が豊富である。そのため、この地域では古くから現在にいたるまで、水を利用した様々な産業が営まれてきた。例えば奈良県では、大和野菜や伝統的な工芸品が作られてきた。また京都府で有名なものには京野菜や豆腐、日本酒や西陣織などがあるが、それは京都府を流れる川の水やきれいな地下水を利用したものである。他にも色々なものがあるが、それは近畿地方は水が豊富であることを生かし、文化を作ってきたのだと考える。

このうえで私が興味をもったのは、近年の近畿地方の人々と水との関係についてだ。

第二次世界大戦後、高度経済成長期をむかえた日本は、環境のことなどは気にせず、発展だけを考え開発・生産してきた。私の住む奈良県を流れる大和川では、汚水やゴミの流入により

全国トップクラスにきたない川になってしまった。川の生物はほとんどいなくなり、水質汚染が進んだことで人々の食べ物や水もきたなくなつたと言われている。年を経るにつれて水質は改善されていったが、現在でもたくさんの水問題がある。例えば人々を支えてきた水が、気候変動により不足している。また、今でも水の汚染が進んでいる。昔よりも、工業や農業の効率化が進んだことやより発展したことにより、昔よりも処理が難しくなっており、水問題はより深刻になつている。

私は今、環境問題に関して学校の授業で学んでいる。そして様々な問題や私たちにできることについて学んできた。近畿地方の人々は、琵琶湖などたくさんの水、そして環境と共生しながら過ごしてきた。しかし近年の人々は、人間のことだけを考え、人間の都合がよいように行動してきたのだと私は思った。

人々と水との関係をよりよくしていくには、今まで以上に水のこと、環境のことを考えなが

ら生活していくほかないと思う。そして、水のことを考え人々と水の関係をよりよくすると、私たちが環境破壊をして開発をするよりも大きなものを得られるのではないかなと思う。自分ぐらいなら川にゴミを捨ててもいい、人間のためならどんなことをしてもよいなどと考えている人々が変われば、人々はよりよい社会を築けるようになるのではないでしょうか。